

	項目	採火日	市町	会場	採火方法	火の名称
三重県	採火	8月15日	桑名市	桑名市総合運動公園 多目的運動広場	市長と市民によるマイギリ式を用いた火熾し事業「桑名市採火式」を開催	桑名の火
		8月13日	いなべ市	北勢市民会館駐車場	市内で行われる祭りの終了後に採火する。	いなべ市子どもの火
		8月13日	木曾岬町	木曾岬町役場	町内の障がい者の方たちが順番にろうそく等に火を付けて採火する。	きそさきの火
		8月15日	東員町	東員町総合文化センター南 図書館前芝生広場	町内の児童が火起こしを行う。	とういんひぼりの火
		8月12日	四日市市	ばんこの里会館	陶磁器を焼く窯から採火する。	四日市 萬古の火
		8月12日	菟野町	菟野西競技場	町内障がい者福祉サービス事業所の通所者の方々と職員にて太陽光を利用して採火する。	こものの火
		8月13日	朝日町	あさひよつばの里ひまわり作業所	町内の生活介護事業所において、入所している障がいのある方と職員とで採火する。	あさひ共生の火
		8月13日	川越町	川越町総合センター	太陽光または着火トーチを用いて採火する。	かわごえ支え合いの火
		8月12日	鈴鹿市	国府公民館	市内のモータースポーツに関連する工作体験教室で使用した火を活用して採火する。	鈴鹿の火
		8月15日	亀山市	亀山市社会福祉センター	伝統産業である「ろうそく」を使用して採火する。	亀山かがやきの火
		8月15日	津市	津市産業・スポーツセンター	障がい者スポーツ関係者等が採火する。	サオリナの火
		8月12日	松阪市	三重県立松阪あゆみ特別支援学校	三重県立松阪あゆみ特別支援学校在校生と舞切り式火起こし器を用いて採火する。	松阪の火
		8月12日	多気町	多気町社会福祉協議会くすのき作業所	障がい者支援施設利用者の手作りロウソクの火を用いて採火する。	TAKI火
		8月15日	明和町	いつきのみや地域交流センター	町内の障がい者福祉サービス事業所で製作する木炭の火を用い、施設利用者と協力して採火する。	明和町 共生社会実現の火
		8月12日	大台町	大台町栃原 出張遺跡	旧石器時代に行っていたであろう、火おこしで採火する。	おおだいの火
		8月13日	伊勢市	三重県営総合競技場	伊勢神宮の恒例祭典で使用されている「火きり具」での火起こしと同じ方法で採火する。	伊勢 生成りの火
		8月15日	鳥羽市	市内海女小屋	障がい者のかたと海女が共同で火をおこし、海女小屋で体を温める火を採火する。	とばの火
		8月15日	志摩市	市内海女小屋	「海女小屋」の火場の火から採火する。	「御食国志摩」の伝統文化 が織りなす次世代へつなぐ 希望の火
		8月13日	玉城町	玉城町保健福祉会館敷地内	参加者ひとりひとりが花火をもって円になり、花火の炎を受け渡し、最後は焚火台に炎を移し採火する。	玉城共生の火
		8月12日	度会町	乙女岩頂上（度会町川上地区）	県指定文化財である「小川郷の火打石」にちなみ、度会町内で採取した「火打石」と火打鎌を擦り合わせて火花を起こし採火する。	わたらいの火
		8月13日	大紀町	大紀町コンベンションホール	マイギリ式で火を起こす。	大紀町の火
		8月12日	南伊勢町	ふれあいセンターなんとう	町内の障がい者サービス事業所、身体障害者福祉会などの代表者が採火する。	南伊勢町の火
		8月13日	伊賀市	伊賀の焼物登り窯前	伊賀の焼物登り窯の新から採火。	すえ 伊賀陶の火
		8月14日	名張市	名張市民広場	市内のゆかりのある火、障がい者施設の火等を「火縄（名張市上小波田）」により採火	地域共生社会創造の火
		8月12日	尾鷲市	三重県立特別支援学校東紀州くろしお学園おわせ分校	生徒の皆さんが、着火石で火をおこすことにより採火する	共にともした「友の火」
		8月12日	紀北町	紀北町役場本庁	障がい者スポーツ関係者が、キャンドルトーチを用いて採火する。	きほくの火
		8月15日	熊野市	道の駅 熊野・花の窟（お綱茶屋）	市内の障がい者団体、障がい福祉サービス事業所により火起こし用具を使用して採火	熊野の火
		8月15日	御浜町	御浜町役場	みかんを活用したバイオ燃料を使用して採火する	みはま未来への火
		8月14日	紀宝町	紀宝町福祉センター	障がい者サービス事業所内にて、利用者の方々等が思いを込めたキャンドルから採火する。	きほうの火 ～ 絆・思いやりの灯 ～
	県内集火	8月15日	津市	三重県総合文化センター	—	東京2020パラリンピック聖 火（三重県）
出立	8月15日	津市	三重県総合文化センター	—		
聖火ピジット	県内市町の庁舎をはじめ、スポーツ・文化施設、福祉施設を中心に県内複数市町で実施します。					
見どころ	三重県の聖火フェスティバルは、県内の全29市町で採火をし、県庁所在地の津市に位置する県の文化施設である三重県総合文化センターで県内集火を行ったのちに、東京に向けた火の出立を行います。 採火の見どころは、国の重要無形民俗文化財に全国で初めて指定された海女漁、二千年の悠久の歴史と文化を刻む伊勢神宮及び伝統的な焼き物の釜土・名所等で行われる火を用いたり、特別支援学校や障がいのある方が活動している施設で行われた火を用いたイベントなど県内市町それぞれの魅力あふれる方法で、独自の採火方法を実施します。 また、県内集火・出立式では、県内の29個の火をひとつの火として東京へ送り出すセレモニーを行い、オール三重で東京2020パラリンピックを盛り上げます。					